

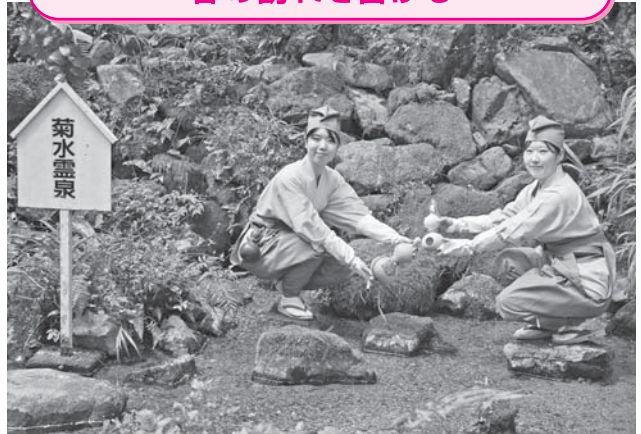
## マルシェで楽しむ買い物と会話



3月14日(土)に町役場玄関前駐車場において、軽トラSDGsマルシェを開催しました。このマルシェでは飲食物や農作物、衣料品などが販売され、お店の人との会話を楽しみながら買い物をすることで、地域コミュニティの拡大を目的としています。

マルシェには19店舗が出店し、町特産ブランド認証品をはじめとした「養老町ならでは」の商品や農作物、衣料品などを販売することで、来場者にSDGsを身近に感じてもらえる機会としました。また、会場は8時の開場と同時に多くの来場者で賑わい、会話を楽しむ人の笑顔であふれ、交流が生まれました。今後も活気あるまちづくりのために開催していきますので、皆さまのご来場をお待ちしています。

## 春の訪れを告げる



日本の名水百選である「菊水泉」から湧き出る水を汲み取り、養老神社などに献水し、春季観光シーズンの安全を祈願する「若水取り」が、春分の日である3月20日(金)に開催されました。ひょうたんに若水を汲む孝子源丞内役は、公募により川瀬礼華さん(写真右)と吉田萌乃さん(写真左)が務めました。

町観光協会の中村一会長は「若水取りは続日本紀に記述があるように、朝廷からの命で立春に菊水泉の水を献上することとなってから、奈良時代より続く伝統ある行事です。当町の町名は、約1300年前の元号である『養老』に由来を持っていますが、観光の際にはそういった歴史と豊かな自然を感じながらお楽しみください」とあいさつしました。

## 地域の農業を守る



ほ場整備や用水路などの整備事業の実施、用排水機などの施設を適正に維持管理することで、地域内における農作物の生産性を向上させるために尽力してきたことが評価され、全国土地改良事業団体連合会会長賞を受賞した多芸東部土地改良区の小野敏理事長(写真中央)が3月26日(木)に川地憲元町長を訪問し、その報告をしました。

小野理事長は「施設の老朽化などの問題は抱えています。地権者の皆さまからも協力をいただきながら、農業の基盤整備を行ってきました。地域の農業を守り、発展させていくため、組合員一丸となって用排水機施設などの維持管理をしています。今後も適切に施設を運用し、農業の安全を確保していきます」と話しました。

## 縁あるまちの発展を願って



ふるさと納税制度を活用して500万円を寄附いただき、紺綬褒章を受章された鬼頭和也さん(一宮市)に対し、3月10日(火)に川地憲元町長から褒章と褒状が伝達されました。

鬼頭さんは「代表取締役社長を務める信和株式会社にも養老町に住んでいる従業員がいますので、より良いまちづくりに役立ててください。また、養老町で仕事をする機会もあるため、縁を感じています。養老町は自然豊かであるとともに、インターチェンジも完成するなどインフラ整備も進み、ポテンシャルの高いまちですので、これから多方面で発展されることと期待しています」と寄附に込めた思いを話しました。いただいた寄附は、魅力あふれる地域づくりのために活用します。